

平成 19 年度秦野市W e b アンケート調査
(第 4 回目)
報告書

平成 20 年 2 月

秦野市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	3
2	調査の設計及び回収結果	3
3	アンケートの調査項目	3
4	調査結果をみる上での注意事項	3
	(1) 調査結果をみる上での注意事項	3
II	調査結果（第4回目）	5
1	属性	7
	(1) 性別	7
	(2) 年齢	7
	(3) 住んでいる場所	7
2	平和について	8
	(1) 「平和都市宣言」の認知度	8
	(2) 平和推進事業の認知度	9
	(3) 日常生活での平和の話題	10
	(4) 平和について考えるとき（自由意見）	11
	(5) 平和の日を制定するなら、その日と理由（自由意見）	12
	(6) 有効的な平和推進事業	13
3	救急車について	14
	(1) 救急車と民間搬送事業者	14
	(2) 救急車を呼ぶときの理由	15

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は秦野市の行政サービスの向上と、市民の行政に対する意識向上のための基礎資料とするために実施する。

2 調査の設計及び回収結果

本調査の実施方法は以下のとおりです。

① 調査地域	市内全域
② 調査対象	秦野市のネット調査会社の登録者
③ 対象者数	300人（回収ベース）
④ 母集団	秦野市のネット調査会社の登録者約 1000人
⑤ 抽出方法	全数
⑥ 調査方法	ネット調査（ヤフーバリューインサイト株）
⑦ 調査期間	平成 20 年 2 月 7 日（木）～2 月 12 日（火）
⑧ 調査機関	㈱経済立地研究所

3 アンケートの調査項目

秦野市の「平和推進事業」に付随する調査項目と「救急車の利用」に関する項目を設定した。

4 調査結果をみる上での注意事項

(1) 調査結果をみる上での注意事項

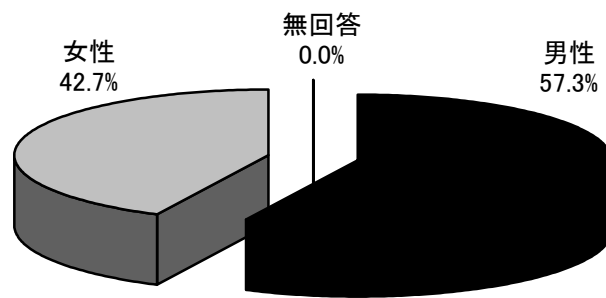
- ① 回答はn（有効回収数）を基数とした百分率で表わし、小数点第 2 位を四捨五入しました。このため、百分率の合計が 100%にならない場合があります。
- ② 集計結果の表やグラフでは、コンピューター入力の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合があります。
- ③ 全調査項目より選定したもののみを掲載した。

II 調査結果（第4回目）

1 属性

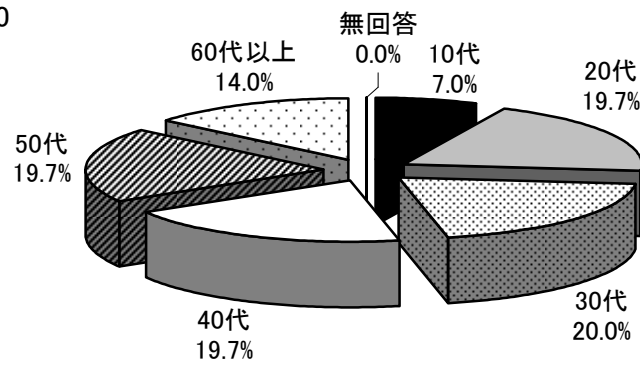
(1) 性別

n=300



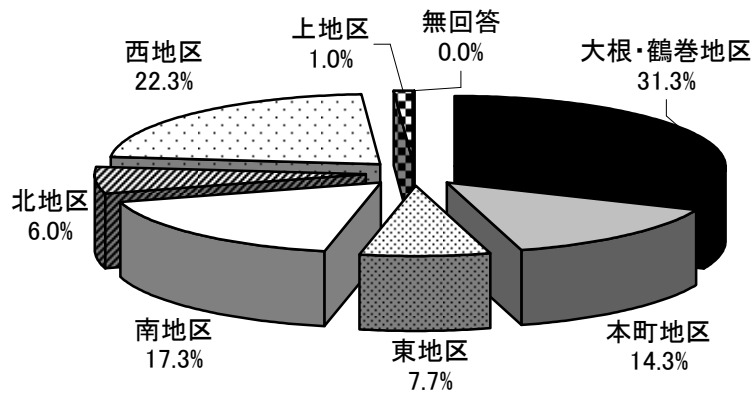
(2) 年齢

n=300



(3) 住んでいる場所

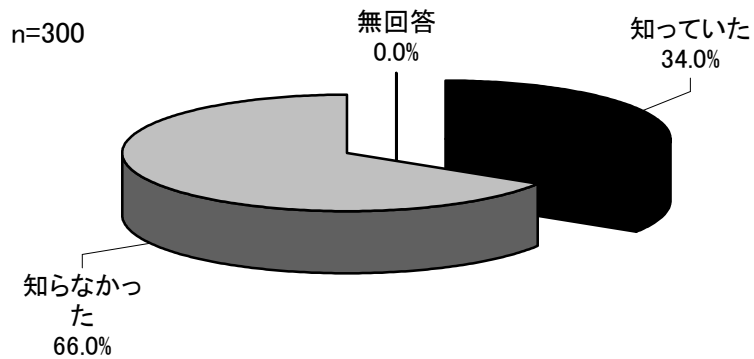
n=300



2 平和について

(1) 「平和都市宣言」の認知度

「知っていた」が34.0%、「知らなかった」が66.0%となっている。



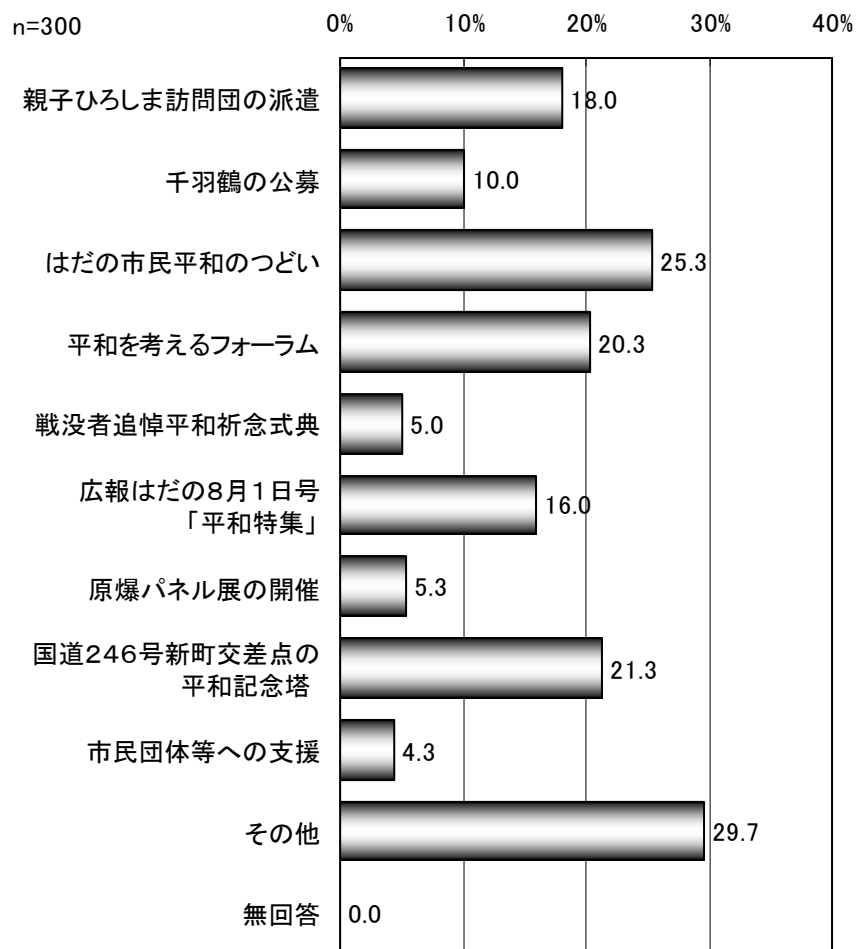
年代別では、「知っていた」が50代で47.5%と最も高い比率となっている。次いで60代以上45.2%、40代40.7%とつづく。「知らなかった」が20代で81.4%となっており、30代76.7%、10代71.4%と続く。若年層に認知度が低い傾向がみられる。

Q1:あなたは秦野市が平和都市宣言を制定(昭和61年)していることを知っていましたか。

%	全体 (実数)	知 っ て い た	知 ら な か っ た	無 回 答
全体	300	34.0	66.0	0.0
10代	21	28.6	71.4	0.0
20代	59	18.6	81.4	0.0
30代	60	23.3	76.7	0.0
40代	59	40.7	59.3	0.0
50代	59	47.5	52.5	0.0
60代以上	42	45.2	54.8	0.0

(2) 平和推進事業の認知度

「はだの市民平和のつどい」が 25.3%と最も比率が高く、次いで「国道246号新町交差点の平和記念塔」21.3%、「平和を考えるフォーラム」20.3%、「親子ひろしま訪問団の派遣」18.0%とつづく。



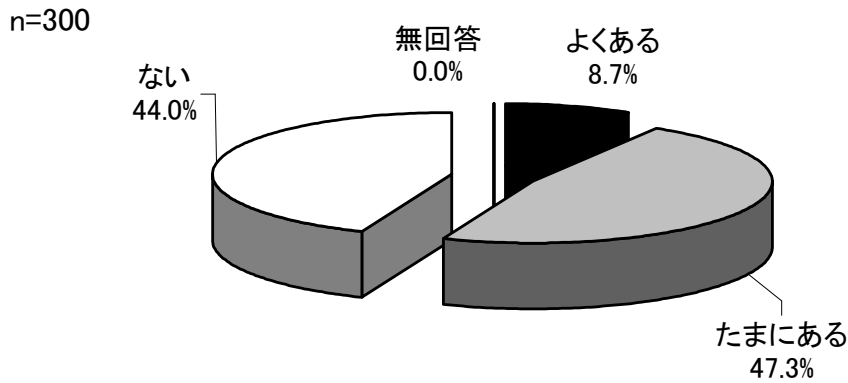
性別で見ると、男性では「国道246号新町交差点の平和記念塔」が 23.3%と最も比率が高くなっている。また、「はだの市民平和のつどい」、「平和を考えるフォーラム」、「親子ひろしま訪問団の派遣」については男性より女性の比率が数ポイント高くなっている。

Q2:秦野市の平和推進事業で知っていたものはありますか。知っていたものすべてを選択してください。[MA]

%	全体 (実数)	親子 ひろ しま 訪問 団の 派遣	千 羽 鶴 の 公 募	つ ど い の 市 民 平 和 の	フ ォ ー ラ ム を 考 え る	念 式 典 追 悼 平 和 祈	日 報 「 は だ の 平 和 の 特 集 」 8 月 1 日	催 原 爆 パ ネ ル 展 の 開	塔 交 道 2 の 4 平 6 号 新 町 交 差 点 の 平 和 記 念 塔	援 市 民 団 体 等 へ の 支	そ の 他	無 回 答
全体	300	18.0	10.0	25.3	20.3	5.0	16.0	5.3	21.3	4.3	29.7	0.0
男性	172	14.0	6.4	22.1	18.6	5.8	16.9	5.2	23.3	5.2	30.8	0.0
女性	128	23.4	14.8	29.7	22.7	3.9	14.8	5.5	18.8	3.1	28.1	0.0

(3) 日常生活での平和の話題

「よくある」8.7%、「たまにある」47.3%があわせて56.0%となっており、「ない」44.0%を上回っている。



年代別では、「よくある」が40代以上で比率が高くなっている。10代、20代、50代で「ない」が最も高い比率となっている。

Q3:あなたは普段、平和について考えたり、家族や友人と話し合ったりすることがありますか。[SA]

%	全体 (実数)	よくある	たまにある	ない	無回答
全体	300	8.7	47.3	44.0	0.0
10代	21	9.5	42.9	47.6	0.0
20代	59	5.1	39.0	55.9	0.0
30代	60	5.0	50.0	45.0	0.0
40代	59	11.9	52.5	35.6	0.0
50代	59	10.2	40.7	49.2	0.0
60代以上	42	11.9	59.5	28.6	0.0

(4) 平和について考えるとき（自由意見）

「平和について考えたり、家族や友人と話し合ったりするのは、どんなときですか」との間に自由に意見を書いてもらった結果を整理すると次のようになる。

分類	件数	代表的な意見
テレビニュースなどで報道されたとき	94	テレビ番組の特集を見たとき 戦争・軍事に関するニュースを見たとき ニュースで東南アジアの内紛に関する報道がなされた時や戦争を題材とした映画や特集番組を見たとき 戦争関係報道が成されたとき 他国の紛争のニュースなどを見たときや、昔の戦争の番組を見たとき テロ事件があったり、地球上のどこかで戦争をしているニュースにふれたとき イラクやアフガニスタン、パレスチナなどの状況をニュース等で伝え聞いたとき等 テレビを見ていて、地域紛争のニュースが流れたり、会話の流れで平和に関する話になったりする
終戦記念日	29	終戦記念日 終戦記念日、原爆投下された日など 終戦記念日などに子供に話す 毎年終戦記念日近く 父親が戦没者である。テロなどの報道がされたときや終戦の日
戦争・事件・事故があったとき	24	凄惨な事件や事故が起こったとき 戦争が起こったとき 近くで事件、事故があったとき 海外で地域紛争が起こったとき 世界の各地で起きる紛争やテロがあったとき
原爆記念日	20	広島原爆記念日 長崎や広島原爆が落とされた特集や戦没記念の式典がおこなわれたりするのをニュースで見たとき 原爆が投下された日 終戦記念日や広島・長崎原爆記念日、世界の紛争がマスコミで報道されたとき 原爆記念日
家族と一緒にいるとき	7	友達や家族がそれについて聞いてきたとき。 我が家では特別なときではなく日常的に話している だんらんのとき
その他	29	直近では阪神大震災後、毎年1月17日に小学校の頃は平和登校日があったのでそのとき 国際情勢が緊迫化したとき 韓国や中国の友達と交流しているとき 何でもない日常を送れているとき 満州など中国残留日本人の記事などのとき 授業や戦争の話題になったとき

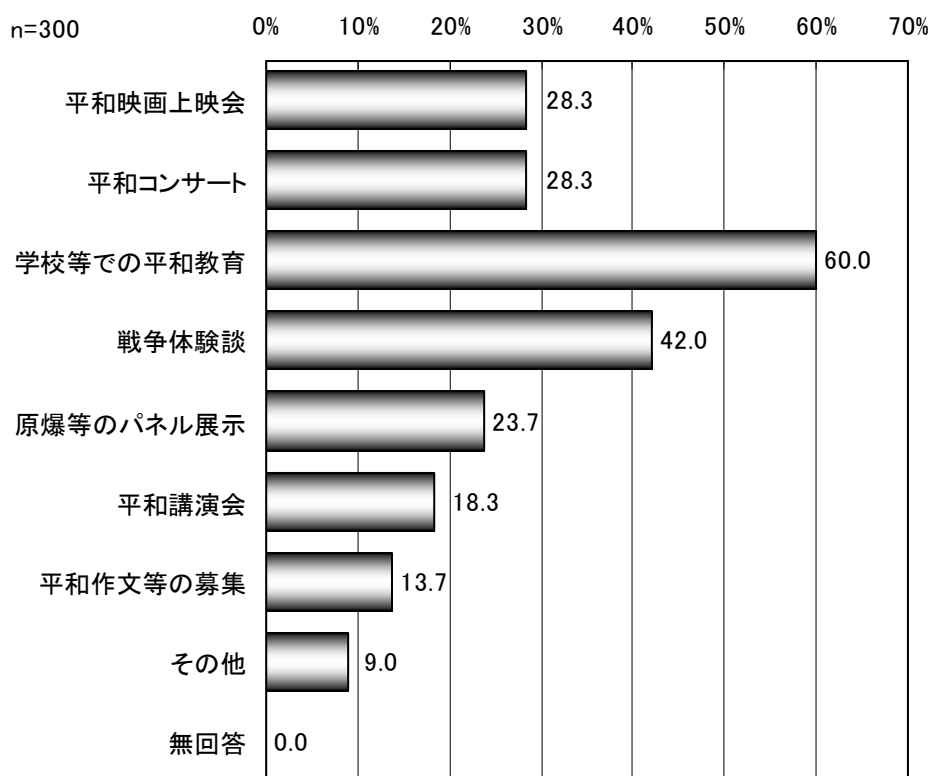
(5) 平和の日を制定するなら、その日と理由（自由意見）

「あなたは平和の日を制定するなら、いつがいいと思いますか。また、その理由もお答えください」との間に自由意見方式で回答してもらった結果を整理すると次のようになる。

分類	件数	代表的な意見
8月15日	150	太平洋戦争が終戦した日だから。8月6日の広島原爆投下日にとすると、9日の長崎原爆投下日の記憶が薄れてしまうので。 変に語呂などに凝るよりも純粋に終戦記念日に平和を祈るのが自然で良いから。 今の日本の中で、戦争について思い出されるのは8月の6、9、15日がメジャーである。そして15日は終戦の日でもあり、新しい日本の礎となった日であるので。 特に日にちはこだわりませんがこの日が無ければ日本は変わらなかったと思います。 平和の尊さ・有難さが日本人の心に等しく刻まれた日だから。戦後60年の「風化」が懸念される中で、平和な社会を継続する上で全てはここからスタートすべきであるとする。
1月1日	17	一年でもっとも国民がゆっくりと過ごせる日であり、意識を高められると思われるため。 わかりやすいため 新年を祝い家族の幸福を祈ると同時に世界の平和を祈る 秦野市が市制となった日であるから制定するに相応しい。 年の初めで、このテーマに相応しい。
8月6日	10	戦争がどんなに悲惨な結果をもたらすかがよく分かるのは、広島原爆だと思ふから 世界で始めて原爆が投下された日であるから
12月8日	8	太平洋戦争が始まった日、日にちも覚えられる 真珠湾攻撃のあった日。あと、学校が休みでなく全員で何かしらのことが出来るように。8月15日などは、夏休みのため子供たちや、親もわざわざでこない人が多いので。みんなで話し合える日が良い。 この日がなかったなら、人々を苦しめた悲惨な第二次世界大戦がなかったことから。
8月1日	6	8月は原爆被爆など戦争に関する日が多いので、8月を平和月間にする意味をこめて1日にしたら良いと思う。 8月というのは原爆が落とされた月でも、戦争が終わった月でもある。1日としたのは、みな覚えやすいから。 広報はだの戦後特集を出す日だから
8月8日	6	平和の『わ』⇒8(輪がつながる感じから) 曲線のみだから 終戦記念日が8月ということと、数字に丸みがあること。8月中だと学生が休みになりイベント等に参加しやすい。 平和な時代が末広がりにつながるよう
8月10日	6	へいわだから 平和の象徴の「ハト」のゴロ合わせ ハートの日
11月3日	6	秦野市民の日と同じにすれば注目度も上がるし、記憶に残るから。企画なども同時期にやった方が、市民の日のイベントに来たついでにちょっと見てみようかなという気になる。
		水無し川で たくさんの方が集まるバザーがあり、他のイベントも行っている。
その他	91	終戦日などの際に、再び争い、平和について考えて見直したい。(今の子供は終戦日も知らない子がおおいのでは?) 15日は終戦記念日だから、その次の日が良いと思う

(6) 有効的な平和推進事業

「学校等での平和教育」が60.0%と最も比率が高くなっている。次いで「戦争体験談」42.0%、「平和映画上映会」28.3%、「平和コンサート」28.3%とつづく。



性別では、「学校等での平和教育」、「戦争体験談」では女性が男性を12～15ポイント上回っている。「平和映画上映会」、「平和コンサート」では男性が女性を数ポイント上回っている。

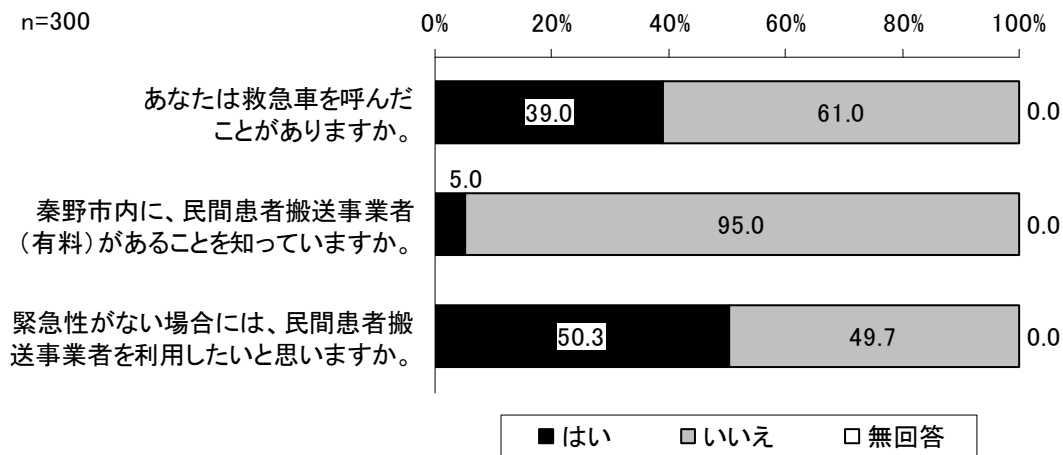
Q6: 秦野市民一人ひとりが平和について考えたり、家族や友人と語り合う機会として、どのような事業が有効だと思いますか。(3個以内でお答えください) [MA]

%	全体 (実数)	平和映画 上映会	平和 コンサ ート	学校 等での 平和教 育	戦争 体験談	原爆 等のパ ネル展	平和 講演会	平和 作文等 の募集	その他	無回 答
全体	300	28.3	28.3	60.0	42.0	23.7	18.3	13.7	9.0	0.0
男性	172	29.1	30.2	53.5	36.6	25.6	21.5	11.6	11.6	0.0
女性	128	27.3	25.8	68.8	49.2	21.1	14.1	16.4	5.5	0.0

3 救急車について

(1) 救急車と民間搬送事業者

「救急車を呼んだことがある」が 39.0%となっている。「秦野市内の民間患者搬送業者（有料）」の認知度は 5.0%と極めて低く、「緊急性がない場合に民間患者配送業者を利用する」と答えている割合も 50.3%と約半数にとどまっている。



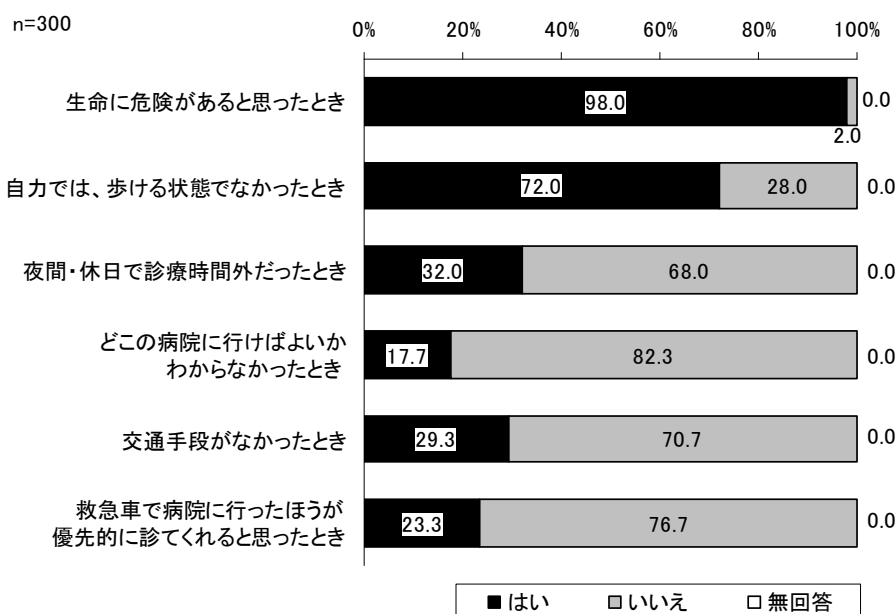
年代別では、「救急車を呼んだことがある」は 60 代以上で 59.5%と最も比率が高く、次いで 40 代 49.2%、30 代 40.0%、50 代 37.3%とつづく。「秦野市内の民間患者搬送業者（有料）」の認知度は 50 代で 11.9%と最も高い比率となっている。若年層には認知度が低い傾向がみられる。「緊急性がない場合に民間患者配送業者を利用する」は加齢とともに比率が増加する傾向がみられる。

Q7次の事項について、「はい」か「いいえ」でお答えください。

		M001:あなたは救急車を呼んだことがありますか。[SAマトリクス]			M002:秦野市内に、民間患者搬送事業者（有料）があることを知っていますか。[SAマトリクス]			M003:緊急性がない場合には、民間患者搬送事業者を利用したいと思いますか。[SAマトリクス]		
%	全体（実数）	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体	300	39.0	61.0	0.0	5.0	95.0	0.0	50.3	49.7	0.0
10代	21	19.0	81.0	0.0	0.0	100.0	0.0	47.6	52.4	0.0
20代	59	22.0	78.0	0.0	0.0	100.0	0.0	33.9	66.1	0.0
30代	60	40.0	60.0	0.0	5.0	95.0	0.0	45.0	55.0	0.0
40代	59	49.2	50.8	0.0	3.4	96.6	0.0	57.6	42.4	0.0
50代	59	37.3	62.7	0.0	11.9	88.1	0.0	57.6	42.4	0.0
60代以上	42	59.5	40.5	0.0	7.1	92.9	0.0	61.9	38.1	0.0

(2) 救急車を呼ぶときの理由

「生命に危険があったとき」が98.0%と比率が最も高くなっている。次いで「自力では、歩ける状態でなかったとき」72.0%、「夜間・休日で診療時間外だったとき」32.0%とつづく。「交通手段がなかったとき」は29.3%となっている。民間患者搬送業者の利用につなげたい。



世代別では、「交通手段がなかったとき」が加齢とともに比率が増加する傾向が見られる。

Q8救急車を呼んだ又は呼ぶときの理由について「はい」か「いいえ」でお答えください。

%	全体 (実数)	M001:生命に危険があったとき[SAマトリクス]			M002:自力では、歩ける状態 でなかったとき[SAマトリクス]			M003:夜間・休日で診療時間外 だったとき[SAマトリクス]		
		はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体	300	98.0	2.0	0.0	72.0	28.0	0.0	32.0	68.0	0.0
10代	21	95.2	4.8	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0
20代	59	100.0	0.0	0.0	74.6	25.4	0.0	27.1	72.9	0.0
30代	60	98.3	1.7	0.0	70.0	30.0	0.0	28.3	71.7	0.0
40代	59	98.3	1.7	0.0	74.6	25.4	0.0	33.9	66.1	0.0
50代	59	100.0	0.0	0.0	69.5	30.5	0.0	30.5	69.5	0.0
60代以上	42	92.9	7.1	0.0	73.8	26.2	0.0	42.9	57.1	0.0
%	全体 (実数)	M004:どこの病院に行けばよいか わからなかったとき[SAマトリクス]			M005:交通手段がなかったとき [SAマトリクス]			M006:救急車で病院に行ったほう が優先的に診てくれると思った とき[SAマトリクス]		
		はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
全体	300	17.7	82.3	0.0	29.3	70.7	0.0	23.3	76.7	0.0
10代	21	4.8	95.2	0.0	14.3	85.7	0.0	33.3	66.7	0.0
20代	59	13.6	86.4	0.0	25.4	74.6	0.0	18.6	81.4	0.0
30代	60	16.7	83.3	0.0	25.0	75.0	0.0	25.0	75.0	0.0
40代	59	16.9	83.1	0.0	32.2	67.8	0.0	25.4	74.6	0.0
50代	59	20.3	79.7	0.0	32.2	67.8	0.0	20.3	79.7	0.0
60代以上	42	28.6	71.4	0.0	40.5	59.5	0.0	23.8	76.2	0.0